

| | |
|------|---|
| 会議等名 | 令和5年第4回海老名市外部評価委員会 |
| 日時 | 令和5年8月28日(月) 9:55～10:50 |
| 場所 | 海老名市役所 3階 政策審議室 |
| 出席者 | 外部評価委員：谷村委員長、西海副委員長、阿部副委員長、城向委員、石井委員、金岡委員、永野委員、田中委員、山田委員 (以上9名出席) 事務局：井上財務部参事兼企画財政課長、久保寺政策経営係長、田村主査 |

1 開会

2 あいさつ

- (1) 課長あいさつ
- (2) 委員長あいさつ

3 議題

- (1) 令和5年度行政評価結果報告書について

【事務局より資料に基づき説明】

【委員より意見・質問】

- 報告書に各グループの評価事業や委員の所属グループを掲載する必要はあるか。
- 委員が評価内容を責められる懸念があり、それにより委員の成り手がいなくなる恐れもある。
- 各グループが責任をもって評価したことを示すため、掲載しておいたほうがよい。

⇒議論の末、各グループの評価事業及び委員の所属グループを掲載することになった。

- 外部評価委員会からのあいさつについて、『「Check」のみで「Act」がない』ということは長年言っている。「Action」しないのであれば、「Check」もしなくてよいと考えてしまう。例えば、来年度は、今回の評価において指摘があった事業を抽出し、その対応に焦点をあてるのはどうか。対応なしの場合はその理由を検証するなど、評価の実効性を担保するものがほしい。
- 外部評価と内部・担当部課評価結果が異なるものを抽出して、それらの事業への対応を報告してもらうのはどうか。
- 長年同じことを言っていることに疑問を感じる。職員の外部評価に対する意識は高くなっているが、Actionにつながっていないため、外部評価の意味を感じにくい。
- 評価後、どのような「Act」をとったかを知りたい。

- 評価に対してどう動くかを決めておいたほうがよい。
- 長年同じことを言っているということは、委員会の在り方を含めて、新しい評価方法を考えるときが来ているのではないか。

(事務局回答) 10月から次年度の予算編成事務を開始するが、予算概要調書に評価結果への対応を記載させるようにする。それらを外部評価委員会に報告する方法も考えられる。職員の考えるきっかけとなっているので、外部評価は重要と認識している。

- 補助金については、交付要綱を見直さない限り、何も変わらない。
- すべての補助事業を一度に評価することは大変である。
- 前回の委員会でも発言があったとおり、政策評価と同じ行政分野の補助事業を見直すのはどうか。

⇒ 報告書については、誤字・脱字等を事務局が訂正し、委員長に確認した上で、了承とする。

(2) その他

事務局から今後のスケジュールを確認した。

令和5年9月7日(木)11時から政策審議室にて市長報告会を開催。

指定管理者の第三者評価をまとめるため、年内に第5回外部評価委員会を開催予定。現委員の任期が令和6年1月31日までのため、本委員会が現在のメンバーで開催する最後の委員会になる見込み。

【委員より意見】

- 次回の委員会で、次期委員への申し送り事項を検討したい。

4 閉会